

東日本大震災 災害支援活動報告

平成23年3月11日に起きた東日本大震災の被災地を支援するために、上下水道部では日本水道協会及び北海道から要請を受け、水道技術職員、下水道技術職員を合わせて12名派遣しました。

水道事業

はじめに

水道事業では第1陣として2班交代で3月19日から3月31日まで、第2陣として同じく2班交代で5月16日から5月30日まで、各班2名ずつ計8名を派遣しました。

業務内容は水道管の復旧が終わっていない断水地区に給水する応急給水で、第1陣は仙台市に、第2陣は石巻市にそれぞれ向かい、水を提供してきました。

応援にきた各都市は、それぞれが給水車を持ち寄り現地に集合しました。

苫小牧市は、上下水道部所有の容量2000リットルの給水タンクを同じく所有しているトラックに積み、フェリーで出発しました。

その後陸路にて被災地に向かい、現地に水を補給し断水地区へ向かうこととなりました。

第1陣

応援要請があったものの、被災地と連絡が取れない状況であり、第1陣の1班目は現地の様子が何もわからない状態での派遣となりました。そのため、最悪のケースを想定しての準備となりました。

第1陣は震災後まもない出発だったため、仙台港が封鎖されており、苫小牧東港からフェリーで秋田港へ向かい、秋田市から仙台市へ陸路で向かうこととなりました。



苫小牧市の給水車
青山保育園にて応急給水作業中

ホテル等の宿泊施設は当てにならないので、自給自足の生活を10日間ほど続けられるようにテント、寝袋、コンロ、食料品、簡易便所や防災道具までそろえました。



仙台市水道局に集まった給水車
全国各地から応援に来ていました

さいわいにして、宿泊は仙台市水道局の会議室を借りて寝袋で寝泊りすることができましたが、それでも食料品や生活用品に余裕はなく、被災地の苦しい状況を肌で感じました。

第1陣は苫小牧市、室蘭市、登別市の3市合同派遣で、先に到着していた日本水道協会北海道地方支部長市である札幌市から指示を受け、1班4名体制で仙台市太白区青山にある青山保育園での応急給水に向かいました。ここは仙台市でも高台に位置し、断水状態が長く続いた地区でした。

持っていた給水タンクに仙台市水道局で水を補給し、青山保育園へトラックで移動して給水所を設け、地区住民に水を提供しました。作業時間は8時から20時まで青山保育園に張り付いての作業となり、2000リットルの水も

早いときには数時間でなくなるので、1日に何回も水道局と給水所を往復することとなりました。

水を入れる容器は原則各自持参ですが、中には容器を満足用意できない住民もいたので、そういう時にはあらかじめ苫小牧市から1000枚持参した飲料水袋を利用する場合があります。



配布した飲料水袋

初めは500ミリリットルのペットボトルを容器として持参する住民が多く見られましたが、次の日からは生活用水として使用する目的が増えたためか、10リットル、20リットルのポリタンクで取水していく人が増えてきました。

それに比例して、順番待ちの時間が長くなってきたことから、作業効率を高めるため、住民が持参したタンクに職員が代理で水を入れ提供することになりました。「普段、何気なく使っている水道のありがたさを、断水によって